

アジア最大の IT 見本市「COMPUTEX Taipei」現地レポート

2013年6月4日～8日 台北世界貿易センター

株式会社クララオンライン
コンサルティングチーム

1. 世界が注目する “IT 立国”台湾の大型コンピューター展示会

台湾の IT 見本市「COMPUTEX Taipei 2013」が、2013年6月4日～8日の5日間に渡り、台湾の台北市で開催された。IT 関連の見本市としてはアジア最大規模、世界ではドイツで開催される「CeBIT」に次ぐ規模を誇る。今回は台北市政府に隣接する台北世界貿易センターの信義会場と南港会場の2カ所5会場で、出展社数は1724社、小間数は5042だった。



公式発表によれば、来場者数は最終日(6/8)の正午時点で13万人を超え、海外から訪れたバイヤーは、世界173の国と地域から3万8300人以上と前年を6%上回った。国別

-1-

本レポートは、業界・企業に関する情報の提供を目的としたものであり、お客様の経営判断や購買、契約行為にあたってはお客様のご判断のもとに行っていただくようお願いいたします。本レポートは、クララオンラインが直接ご提供するという方法でのみ配布しておりますので、お問い合わせにつきましてはクララオンラインまでご連絡ください。本レポートのいかなる部分も、一切の権利は株式会社クララオンラインに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行うことを禁止いたします。なお本レポートに掲載されている第三者の企業名や商標、ロゴマークは個々の権利所有者に帰属します。また本レポートを日本国外で配布することは禁止いたします。

の来場者トップ 10 は、日本、米国、中国大陸、香港、韓国、シンガポール、インドネシア、タイ、マレーシア、ドイツとなっており、アジアが全体の 60%、欧米が 25% を占めたとの発表のように、会場では英語が盛んに飛び交っていた。

2. B2B メインの信義会場、パーツ中心に多彩な展示

市中心部にほど近い信義会場では、通信製品、周辺機器、ディスプレイなどの OEM/ODM (相手先ブランドによる製造/設計からの製品開発) 向けの製品を中心にブースが並んでいた。OEM の発注側とみられる欧米人が、あちこちのブースで見本を手にとって説明を受けている姿が印象的だった。

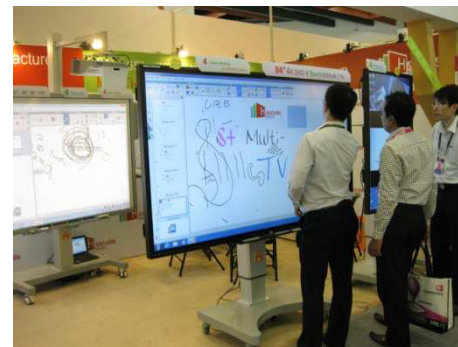
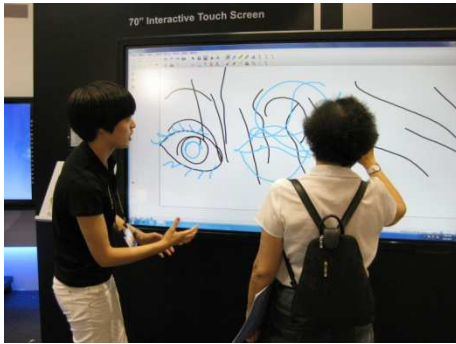


コネクタなどパーツ類やケーブル、各種機器のパネル部品といった展示が中心

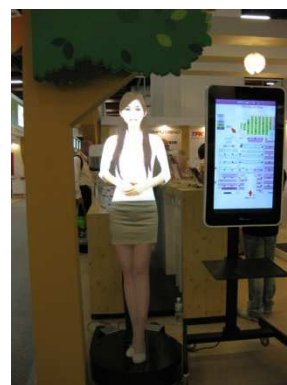


中国で所有率が上昇している住宅や自動車の関連製品には中国人バイヤーが集まる

また大型のタッチディスプレイを展示するブースが数多くみられた。メーカーによって学校や学習塾で黒板代わりになることをアピールしたり、社内会議やテレビ番組内での利用例を示したりとその用途は様々だが、台湾や中国大陸からとみられるバイヤーがディスプレイの前で立ち止まり説明を受ける姿をよく見かけた。

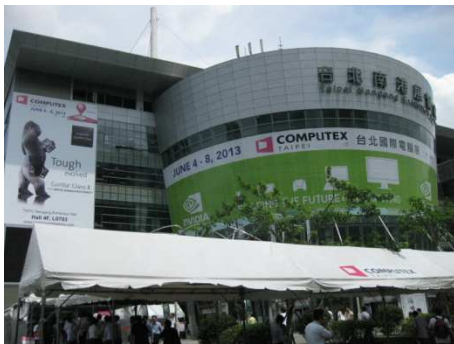


このほか、医療現場向けのPC搭載用カートやデスクマウントアーム、クーポンの発行にも対応するデジタルサイネージ、オフィスや店舗の防犯カメラ、日本でも話題になりつつあるスマートフォン向けの無接点充電機器などあらゆる電子機器が展示されており、わずかながらゲーミングデバイスを扱うブースもあった。



3. 南港会場は有名メーカーが集結！新製品の発表やイベントが盛り沢山

信義会場から無料のシャトルバスに乗り 20 分ほどの場所にある南港会場は、HTC、ASUS、Acer といった台湾の有名メーカーをはじめ、AMD や Intel、Microsoft などが巨大なブースを構えており終日たいへんなにぎわいだった。今年のトレンドを知ることができる「ベストチョイス」アワード受賞製品の展示ブースや台湾を代表する製品を集めた TAIWAN EXCELLENCE パビリオン、香港、米国、韓国、イスラエルなどのナショナルパビリオンもこちら南港会場にある。



信義会場に比べ若い人や欧米人の来場が多い印象

南港会場は、一般消費者向け製品の展示が豊富で、特にスマートフォンとタブレット PC のケースやカバー、車載ホルダーの展示が多かった。いくつかのブースで話をきいたところ卸売業者のほか、個人商店のオーナーやオンラインショッピングを運営する個人も新たな仕入れ先を探しに訪れているようだ。

一方、大手メーカーが出展する 2 階は、さながらゲームショウのような盛り上がりで、大きな音で音楽が鳴り響くブースではコンパニオンによるダンスや写真撮影会、賞品がもらえるイベントが行われ大変な盛り上がりだった。



フロアの中央に巨大ブースを構えた Acer は、モバイル製品を中心に展示。世界初の

CLARA ONLINE Taiwan Internet Report
2013.6.12

Windows 8 搭載 8 インチタブレットをお披露目したほか、5.7 インチの大画面スマートフォン「Liquid S1」、Haswell こと第 4 世代 Intel Core プロセッサを搭載する高解像度 Ultrabook「Aspire」シリーズの新モデルに高い関心が集まっていた。



対する ASUS も COMPUTEX の開催に合わせて発表したタブレットや Ultrabook と共にゲーマー向けのマザーボード等を展示。特に注目を集めていたのは、6 インチサイズのタブレットに通話機能を備えた「Fonepad Note FHD6」、Android 搭載でタブレットとしても使えるハイブリッドモデルの「Transformer Pad Infinity」、自宅のテレビと接続した利用を想定した Windows 搭載の「VivoPC」で、多くの人が手にとっていた。



Padfone はスマホがタブレット背面に合体 VivoPC のマウスは円形部分がタッチパッド仕様



(左) Fonepad Note FHD6

(中央) Transformer Pad Infinity

Microsoft のブースでは、Windows8 搭載のノート PC や Windows Phone を中心に、クラウドベースの「Office365」体験コーナー、KINECT を使ったりハビリスシステム、組み込み機器用 Windows Embedded 製品による医療・看護システムなどを展示。病院向けの各種システムに広く展示スペースを割いており、受付やナースステーションの管理システム、ポータブルタイプの画像・データ表示システムといった普段は目にしない Windows システムに興味をひかれた来場者は多いようだ。



似顔絵パフォーマンスに長蛇の列



Office365 が 1 年間無料になる抽選会も



各メーカーの Windows Phone が集結

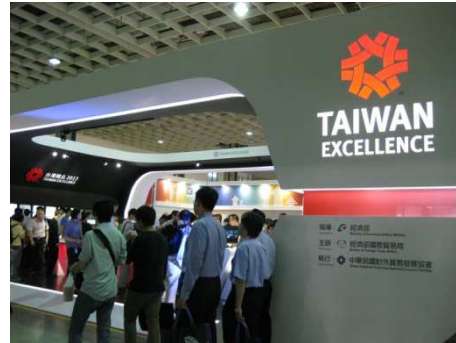


様々なデバイスで Windows8 が体験できる

このほか会場では、タブレットと POS を組み合わせた小売店向け機器、建設現場などの屋外利用を想定したタブレット製品、タブレットケースとセワイヤーロックが一体化したセキュリティグッズなど、タブレットとその派生商品や周辺機器の展示を多く見かけた。またゲーマーを想定した自作 PC パーツはもちろん、マウスやキーボードといったゲーミングデバイスの展示も予想外に充実しており、ゲームショーと見まがうゲーム対戦イベントも。またこちらの会場でも、OEM/ODM 向けのディスプレイパネル、電子部品、ケーブル類といった細かなパーツを展示する小規模なブースが並んでいたほか、血圧計などのヘルスケア家電、電気自動車のバッテリーチャージャー、無線機、オフィス用ビジネスフォン、電池類、カーナビなどあらゆる製品を見ることができた。



POS に革命が起きているという



台湾の主力製品が並ぶ特設パビリオン

クララオンラインもビジネスカンファレンスでセミナー開催

南港会場そばのソフトウェアパークで6月6日、一般社団法人全国地域情報産業団体連合会(ANIA)などが主催する日台ビジネスカンファレンスが開かれた。当日は徳島県・愛媛県・石川県などのIT企業経営者ら50人余りが参加し、台湾進出に関するセミナーや台湾企業によるプレゼンテーションが行われた。



クララオンラインは「台湾活用型がどうして有効かを検証する」と題するセミナーで、中国本土やASEANへのアプローチを念頭に置いた台湾進出戦略について解説。日本との親和性が高い台湾は、中華圏ビジネスを成功に導くための重要なステップになるとして、台湾のITインフラや人材の活用方法、日台アライアンスによるビジネスモデルの優位性などについてクララオンラインのこれまでの経験を元に紹介した。



カンファレンスの終了後には、会場を移して客家(ハッカ)料理を食べながらの懇親会も。円卓では中国語、英語、日本語が飛び交い、台湾側ゲストとの親睦を深めた。意気投合した台湾人オーナーと継続した情報交換を約束する姿もみられ、充実した1日となったようだ。

4. 台湾の勢いを身をもって感じる必見イベント

公衆無線 LAN が普及する台湾ならではのと言えるのが、来場者を対象とした無料の公衆無線 LAN サービス。COMPUTEX の会場にはフロアごとに無料のアクセスポイントが用意されており、Web 閲覧やメッセンジャーアプリで写真を送る程度であればストレスなく利用できた。無線 LAN を提供する展示ブースも多く、来場者のものとみられる“野良 WiFi” もたくさんある。入場バッジに記載された番号を使えば、台北市政府が運営する無料の公衆無線 LAN 「Taipei Free」 が、滞在中ずっと利用できるのもありがたい。



今年は展示テーマの一つとして「タッチデバイス」が挙げられている通り、Haswell をいち早く搭載した製品を含め、スマートフォンやタブレットといったタッチディスプレイ製品とその周辺アイテムが特に豊富に揃った印象を受けた。来年の開催は 2014 年 6 月 3 日～7 日までの 5 日間。台湾が得意とする OEM/ODM を中心とする IT 産業の勢いを感じ、世界の IT トレンドを知るにはうってつけのイベントと言えるだろう。



会場外では台湾ビールがもらえる

ビジネスセンターには無料 PC

台湾が注力するクラウド

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンラインコンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は 2013 年 6 月 12 日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンラインコンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776